

7-1

三の丸武家地の変遷

三の丸には石高の多い譜代の家臣や重臣が住んでいました。「享保十三年秋改 信州松本城下絵図」を出発点としてその後の変化を見てみましょう。



- 1 現在の大名町通りは享保13年の信州松本城下絵図では「大名小路」となっています。道幅は現在の車道部分とほぼ同じと見られていますが、北側でどのくらいあったでしょう。

③ 6間1尺 と享保十三年秋改図にはかかれています。1間は6尺。1尺は30.3cmです。
- 2 地図の南側土墨に沿って西から東に伸びている小路名（A）及び旧勸銀の南側の小路（B）をなんと呼んだでしょう。

A——（ ④土手小路 ） B——（ ①中小路 ）

ちなみに土手小路は信府統記には土手際小路とある。Eの門の前の工事は上小路
- 3 Cは板橋兵左衛門の屋敷です。大阪の陣で、城主戸田康長の危機を救ったとされる「夜光稲荷」伝説をもつ600石の家柄です。慶長19年(1614)知行80石で戸田康長に仕え、正保2年(1645)には1000石に出世しています。（その後分家を出し享保13年段階では600石）板橋兵左衛門はどこで仕官しましたか。

① 笠間 で慶長19年に80石で召しだされています。

- 4 Dは屋敷の大名小路に面し長さが43間1尺という広大な林忠左衛門の屋敷です。年寄役を勤めていますが何石の家柄でしょう。

④ 1000石 林家は戸田家譜代の家臣である。天正17年三州二連木で召しだされている。

- 5 Eの地点あたりに現在写真のような新井家の門が建っています。これは当時の様子を伝える武家の門ですが、この形式をなんというでしょう。



②腕木門

腕木

門は朱が塗られていたらしく現在も跡が残っている。

- 6 Fのところに辰巳御殿たつみごてんがありました。辰巳御殿は弘化2年(1845)「病あるを以って」という理由で戸田光則に家督を譲り隠居した城主が住んだところである。隠居し尤香齋(ゆうこうさい)と称した人物は誰でしょう。

④光庸(みつつね) 弘化2年隠居48歳であった。天保6年光庸は弟光領を世継ぎと決めた。しかし天保12年江戸で死去したため光則が家督を継いだ。光庸の隠居は表面は病気ということであったが、治世9年の間に戸田図書事件・お預百年祭・城郭の修築などが行われ、安曇郡寺戸所村に贖金げんせきづくりがあり犯人を検挙できず、藩主自ら20日間の差し控えを命ぜられたことがあった。こうした藩政上の失策を幕府から譴責されたものと云う見方もある。

- 7 女鳥羽川にかかる大手橋を渡って大手門から大名小路に入ることは庶民は許されませんでした。この規制が取り払われ通行自由になったのはいつでしょう。

②明治3年7月 この記述は旧松本市史下199Pにあり。

- 8 明治13年6月 明治天皇「御巡幸松本御通図」の錦絵には本町通りに警察がその北側にG寺院があります。この寺院は明治11年4月大手門西の総堀を埋め立てて作られたものでした。この寺院名はなんというでしょう。



① 本願寺別院 現在本願寺松本別院は蟻ヶ崎 4-4-10 に移転している。

- 9 武家地には屋敷神として稲荷社を祀ることは盛んに行われていた。明治維新後住人の移転に伴って残された社もあったと思われる。この大手公民館西側にある稲荷は江戸時代からのものといわれている。この稲荷社の名前はなんというでしょう。



③美術稲荷 美術稲荷の説明板には「創建年月は不詳。松本城主時代からすでにお社があったと伝えられる。神名の美術とは白狐のお姿が美しく術に長けているところから名付けられた。」とある。